

フリーターの現状と対策

大東文化大学社会学部社会学科

18191135

清水耀心

【研究動機】

近年、フリーターやニートといった言葉をテレビや新聞で社会問題として見かけるようになった。また、今年就職活動を経験したことからフリーターやニートという言葉が良く耳に入るようになった。筆者はフリーターやニートといった言葉に抵抗を感じない。なぜなら、正社員として働いていても長時間の残業や人間関係で心身を病んでしまうより、フリーターとして自分の好きな時間や予定に合わせて無理なく働くことによって生活していくことができるなら、それもまた生きるための選択肢の1つなのではないかと考えているため、本論文で検討・考察を述べた。

【方法】

先行研究やインターネットの情報、参考文献などから本論文の検討・考察を行った。

【結果】

フリーターの対策について検討し、雇用の確立、賃金や収入面での安定化、フリーターという立場や職業身分の強化、若者に対する教育の支援・強化の4つの項目について考えを述べた。また、5つ目に筆者独自に考えた若者目線での対策についてまとめた。

【考察】

経済状況や社会の変化によってフリーターの割合も増減し、変化していくということが考えられる。また、過去のフリーターの状況と現代のフリーターで全く同じというわけではなく、それぞれ歴史的な背景や日本の経済状況、世界情勢、福利厚生の充実さなどあらゆる観点で異なっているため、比較・検討することがとても難しい。正社員として働くことが困難でアルバイトとして働くことを選んだ人も含まれるが、特に家庭内の状況やしっかりとして教育や支援が受けられず、フリーターとして働く選択肢しかなかったような人や家庭にはこれから政策や十分な支援によって、援助の手助けや少しでも豊かな生活を送れることを切に願う。